

ことばの発達について

ことばを話せるようになるためには、毎日の生活の中で経験を積み重ね、理解できることばが増えていくことが必要です。“教え込む”より、子ども自身が“伝えたい”気持ちを育てることが大切です。周りの大人が“よい聞き手”“上手な遊び相手”になりましょう。

ことばの発達の目安



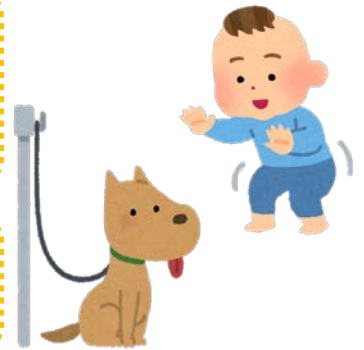
0か月～6か月頃：生まれた時から、周りの声が聞こえています。「おなかすいたね」「お尻サッパリしたね」など、声をかけながら授乳やおむつ替えをしましょう。次第に、自分から笑いかけたり、声を出したりするようになります。子どもが見つめているものを言葉にして伝えてあげましょう。

7か月頃～：泣き方の違いで、感情や欲求を表すようになります。「バババ・・・」「ンマンマン・・・」など、つながった声を出すようになります。「ベロベロバァ～」など、大人の口の動きを見せながら遊びます。

10か月頃～：名前を呼ぶと、振り向くようになります。「○○ちゃん」⇒「はい！」と手を挙げる遊びを楽しみましょう。

1歳頃：「わんわん」「ブーブー」など、身近なものの名前（名詞）が言えるようになります。欲しいものがある時は、ものを指さしたり、大人を近くまで引っ張ったり、泣かずに教えてくれるようになります。「わんわん来たね」「お茶が欲しいのね」など、子どもの気持ちを言葉にしてあげましょう。

1歳半頃：名詞が3語以上言えます。物の名前や体の部分を問うと、指差して答えることができます。「どうぞして」「ごみポイして」など、簡単な指示もできるようになり、簡単なお手伝いができます。



2歳頃：名詞がたくさん言えます。「わんわん、きた」など、**二語文**が言えるようになります。「～を持ってきて」など、指示したことができます。ブロックや積み木を車にして走らせるなど、『見立て遊び』をするようになります。



3歳頃：大・小の比較や色の区別ができるようになります。5W1Hの質問（「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「なぜ」「どのように」）に答えられるようになります。会話のキャッチボールができるようになります。「これなあに？」「どうして？」が多くなりますが、面倒がらずに教えてあげましょう。

ことばかけの工夫

♥**正面からしっかり目を合わせて話しかけましょう。**
物を渡すときに、一度、物を大人の目元あたりに示すと、目が合いやすくなります。

♥**禁止や否定ではなく、“具体的なことば”“ポジティブなことば”をかけましょう。**
「走らないで」「投げないで」⇒「お手をつないで」「そーっと置いて」
「～しないとオヤツあげないよ」⇒「～してからオヤツ食べよう」など、やってほしい行動を具体的に伝えてみましょう。

ことばを伸ばすポイント

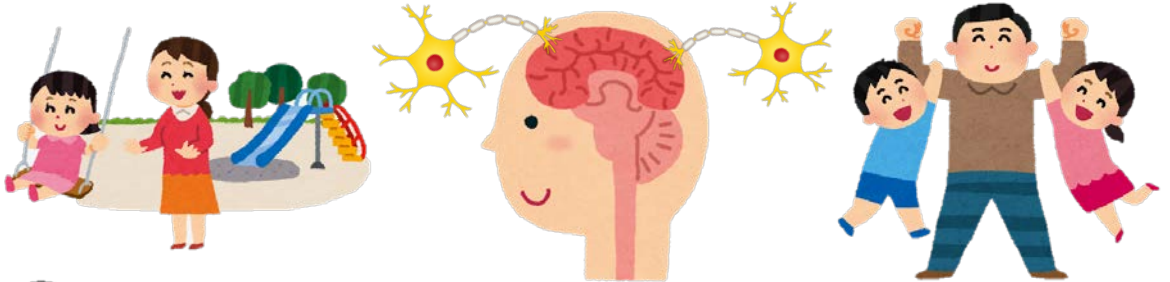
その1 土台となる「からだづくり」「生活づくり」

○規則正しい生活で、健康なからだをつくりましょう。

○からだを動かして、楽しく遊びましょう。

ことばを理解したり話したりするのは、大脳皮質の働きです。

高次である大脳皮質が発達するためには、土台となる大脳辺縁系（感情や記憶など）や脳幹（体温調整やホルモン分泌や筋肉運動など）の働きが整っていることが必須です。からだ全体を使った遊びや 手先を使った遊びは、これらの脳の発達を促します。



その2 「情緒の発達」

○体験の中から芽生えたたくさんの感情に、ことばを添えてあげましょう。

楽しい！ できた！ びっくり！ ちょっとイヤ💢 残念💢など、こどもが今感じていることをことばで伝えてあげます。

その3 「豊かな経験・体験を増やす」

○五感を使って、本物の感動やわくわく体験を積み重ねましょう。

見る・聞く・味わう・触る・嗅ぐというリアルな体験は大きな蓄積となり、さらに興味や関心の世界を広げます。水たまりを長靴でジャブジャブ遊び、葉っぱやドングリ拾い、砂遊びでお団子づくりなど、楽しい遊びはたくさん！野菜洗いやお花の水やりなど、日常生活の中での経験も増やせるといいですね。



その4 「人との関りを大切にする」

○親子でしっかり共感しよう。

ことばは、人と人との関りあいの中で育ちます。親子で一緒に楽しく笑ったり、「できたね！」「イヤだったね」と親に認められ、理解してもらえることで、こどもは達成感や安心感を得ることができ、信頼感や自己肯定感を高めます。これは、テレビやスマホの一方向の伝達では成立しません。

